

東京総合美容専門学校

2022年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園

東京総合美容専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが定められているか		4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか		4
理念・目的は、社会のニーズなどに対応し適宜見直されているか		4
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか		4

①課題

昨年、人事コンサルタントにご協力いただき、本学園のミッション、ビジョン、バリューを明文化した。全職員への心からの浸透させることが課題である。

②改善方法

明文化したミッション、ビジョン、バリューに紐づいた評価制度を導入したので、年2回の評価面談の機会に上司・部下で再確認できると期待している。

③特記事項

公式のHPや学生生活のガイドブックには、理念・目的・人材像を記載し周知している。

2. 学校運営

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか		4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか		4
意思決定のシステムは確立されているか		4
人事処遇に関する制度は整備されているか		3
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか		4
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか		4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか		4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか		4

①課題

今年度より新人事制度の運用がスタートする。等級、評価、報酬の各種制度に対する職員の理解と適切な運用ができるかどうか課題である。

②改善方法

年2回の上司部下との面談後に、人事制度に関する感想をヒアリングする必要がある。各自が抱いた制度運用に関する疑問や要望を把握して改善策を講じていく。

③特記事項

教職員の退職者が多い年度となった。欠員補充が的確にはできていない状況で新年度を迎える。想定外の欠員に対応するために、定期的に募集活動を行っておく必要性を感じている。

3. 教育活動

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか		4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか		4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか		4
授業評価を実施しているか		4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか		4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか		4
資格（免許）の指導体制は整っているか		4
資格・要件を満たした教員を確保しているか		4
研修会など教員の資質向上への取り組みを行っているか		3
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか		4
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか		4

①課題

教員の中でクラス運営や技術指導の力量に差が出てきている。やはり、ここ数年で採用した職員が経験不足によってトラブルを起こしてしまうケースが見られた。学生への目配りが足りず対応が後手になった事例もあった。

②改善方法

新年度がスタートしてしまうと、どうしても日々の授業やイベントに追われてしまい、中々自身の指導力を見つめなおしたり、新たな指導方法を身に付けることが難しい。そのため、年度初めの春休み期間や夏休み期間などで勉強会や外部の専門家を招いての研修会の開催も検討していきたい。

③特記事項

新年度からは、美容科とトータルビューティー科の両学科の責任者のポストを設ける。これにより、学生指導やイベント運営等に学科による差がなくなり学生の不公平感などが軽減されることに期待したい。

4. 学習成果

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか		4
資格・免許の合格率の向上が図られているか		3
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか		3

①課題

新型コロナウイルス感染症による美容師国家試験や各種検定試験の未受験者が出てしまった。また、受験前の追い込みの授業への欠席者も出てしまったことも合格率に影響したと考えられる。また、昨年引き続き化粧品会社の採用減によりトータルビューティー科メイクコースの就職活動の苦戦が続いている。

②改善方法

国家試験、各種検定試験の合格率は、新型コロナウイルス感染症の感染が落ち着けば必然的に改善されると推察される。トータルビューティー科メイクコースの就職は、アルバイトや早期インターンシップ等の少ないチャンスをものにできるように指導していきたい。

③特記事項

トータルビューティー科は、苦戦しながらも人気ブランドから毎年内定をいただけていることが入学者増加に大きく影響している。美容科でも有名店への内定者を増やし広報することで入学者を増やして行きたい。そのために、美容科の有名店就職担当者のポストを新設する。

5.学生支援

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか		4
退学率の低減が図られているか		2
学生相談に関する体制を整備しているか		4
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか		4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか		4
学生の生活環境への支援は行われているか		4
課外活動に対する支援体制は整備されているか		3
保護者と適切に連携しているか		4
卒業生への支援体制はあるか		4
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか		—

①課題

今期も、トータルビューティー科 1 年生の退学者数の増加傾向が続いてしまった。退学の原因は、学生自身のメンタル面によることが多い。

美容室の中で、早期に育成しスタイリストデビューをさせる教育制度を設けるサロンが増えており何社か協同の提案があったが教室貸しの協力程度の対応にしている。

②改善方法

昨年秋より、以前から検討していた外部の専門家の相談窓口との契約をした。学生自身と教職員が電話やメール、窓口でカウンセラーの相談できる内容になっている。相談窓口も池袋にあるので利用が進むことを期待している。

早期育成や再就職のための育成プログラムは、非常にニーズはあると思われるので、引き続き学校としての関わり方を検討していきたい。

③特記事項

今年度も、1名の学生が後援会による緊急時の貸与型奨学金によって無事に卒業することができた。

また、不遇な処遇で悩んでいる卒業生や内定者が教員に相談に来て、学校として対応したところ改善された事案があった。

6. 教育環境

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか		4
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか		3

①課題

今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により校外実習やインターンシップ、海外研修が中止なってしまった。

オンライン授業の対応のためにWiFiを増設したが、利用が集中すると不具合が出てしまうことがある。

②改善方法

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染収束次第になると思われる。次年度よりトータルビューティー科のオンラインコースの募集がスタートすることもあるので、オンライン授業のインフラ整備を進めていく必要がある。

③特記事項

今年度も、施設・設備の老朽化に対応するための点検や改修工事を行った。地震や火災に備え、備品管理や訓練の検討を進めていきたい。

7. 学生募集と受入れ

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか		3
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか		4
入学選考基準は明確になっているか		4
入学選考は、適性に行われているか		4
学納金は、妥当な金額設定になっているか		4

①課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面型のオープンキャンパスへの高校生の参加が減少した。また、地方の高校生の入学希望者の減少も続き美容科は例年を下回る募集状況となった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まり、上京することへの抵抗感がなくなってくることに大いに期待したい。

②改善方法

国の修学支援新制度や給付型奨学金等の独自の支援制度を広報することで、進学をあきらめていた世帯の高校生をターゲットとして広報活動を強化したい。また、地方の高校生が参加しやすいオンライン面談の強化や来校型オープンキャンパスへの交通費の支給も検討していく。

③特記事項

独自の給付奨学金制度スペシャルサポート制度の選考会が2年目となったが、初年度と同じ程度の応募者であった。応募者の多くは美容へのモチベーションが高く、優秀な高校生が多いので継続して実施していきたい。

8.財務

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか		4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか		4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか		4
財務情報開示の体制は整備されているか		3

①課題

就学支援新制度は、年収が少なく本来進学をあきらめていたご家庭の高校生を入学させることができる一方で、途中で退学になった場合には制度が不適用になり、通常の学費を納入していただく必要がある。しかし、年収が少ないため学費や教材費の徴収が難しくなるというリスクがある。

②改善方法

就学支援制度の減免対象にならない施設維持費や教材費については、入学前に用意があることを確認し入学前に納入していただく。また、退学になった場合は、制度の適用が外れ正規の授業料が発生することを保護者と入学生本人にしっかりと認識させる必要がある。

③特記事項

昨年度から、新しい会計事務所に決算や監査をお願いしている。以前に比べ計画的で適切な業務遂行が行われている。

9.法令等の遵守

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか		4
個人情報保護に関する対策が取られているか		4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価結果を公表しているか		4

①課題

美容科は、教員資格を保有する職員の増員が課題であるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、教員資格の取得するための研修や試験を受ける機会が減少している。

②改善方法

新型コロナウイルス感染症の収束が待たれるところだが、美容学校教員資格を持った経験者の採用も並行して行う必要がある。

③特記事項

学校関係者評価委員には、就職や教材購入等でお世話になっている有名企業の役員の方々に就任いただいている。

10.社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		4
国際交流に取り組んでいるか		3
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか		3

①課題

海外研修旅行は、実施できなかったが、ボランティアやスチューデントサロンの授業は実施することができた。しかし、人数制限や頻度を減らしての開催のため、教育的効果が下がってしまうことに懸念している。

②改善方法

昨年続き、新型コロナウイルス感染症の収束が待たれる。

③特記事項

ホールや教室の貸出事業は、教育や文化活動の支援につながっている。